

創造的な年代記エディタの開発と活用法

絶賛個人開発中の年代記編集支援ツール「Chronicle」による時系列情報の整理と視覚化を紹介します。



Chronicle: <https://chronicle.searchwiki.org/home>

概要: 本稿では、時間を扱うGUIの探究の一環として開発している、年代記エディタ「Chronicle」の概要とその活用例について解説する。Chronicleは、マルチカラム表示機能を備え、異なるテーマの出来事を収録した年表を共通時間軸で並べて比較することを可能にする。柔軟な粒度での時間表現と直感的な操作性により、歴史の学習、読書支援、予定管理など、学生から歴史愛好家までが扱う幅広い分野での情報整理で活用できる。

キーワード: 年代記エディタ, WYSIWYGエディタ, 時系列情報, 視覚化, 情報整理

Chronicleの主な機能

Chronicleの主な機能は以下の通りである。

- プレーンテキストベースの記述: 出来事を汎用的なTSV形式「時間値\説明文」で表現することでデータの可搬性を高めている。外部のツールで作成されたファイルをインポートすることも可能になる。
- マルチカラム表示: 多様な切り口の年表を並列に表示できる。各々の専門分野の話題を記述したものを共有して串刺し検索できるような、年表のマッシュアップサービスを目指している。「iMacの発売」と映画『魔女の宅急便』の

公開はどちらが先か？」や「Gmailの日本での提供と100円マック開始はどちらが先か？」といったクイズ生成にも応用できると考えている。

- 柔軟な時間表現: 年、月、日、時刻まで柔軟に指定でき、ざっくりとした年単位の記述から詳細な時刻まで対応可能である。サーバログから世界史まで様々なスケールの時間を扱える。
- サムネイル画像の指定: 出来事にサムネイル画像を追加することで、視覚的な表現力を向上させることができる。
- 自動ソート機能: ユーザーの入力情報を自動的に時間値で昇順ソートするため、細かい順番を気にすることなく出来事を書き込むことができる。

Chronicleの活用例

当初想定していた用途を超えて日常生活で活用できる。

- 歴史の学習: 時間軸を視覚的に捉えることを支援する。自動ソート機能のおかげで、全容を把握せずとも好きなところからノートを書き始められる。
- 読書の支援: 書籍に登場する事実を抜き出して出来事の前後関係を把握する。特定の分野に関する複数の専門書で共通して取り上げられている重要な事実の発見などを通して理解をサポートする。小説での出来事のタイムラインをまとめる際にも役に立つ。
- 予定管理: 「未調整」「調整中」「確定済み」のようなカレンダーカラムを作って書き出すことでバッティングする可能性のある予定を一目で確認でき、効率的なスケジュール調整を効率よく行える。



★ ★ 付録: 本稿を作成するにあたって、構成を練るために大規模言語モデル(GPT-4、Gemini 1.5 Pro)と対話した記録を下記ページにて公開しています。

<https://usercontent.griddles.me/teamj/chronicle.html>